

上代裂に見られる色彩の系統色名

——国立歴史民俗博物館収蔵資料上代裂帳について——

神 庭 信 幸

-
- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. はじめに | 4. 測定結果 |
| 2. 色材の分光スペクトル測定 | 5. 各色彩の系統色名 |
| 3. 測定対象となった上代裂の種類 | 6. ま と め |
-

論文要旨

国立歴史民俗博物館が所蔵する上代裂に関して、裂に残る色彩の分光スペクトル測定により、各色彩の系統色名による分類を試みた。各色彩は Brown（黄赤）、Olive（黄緑）の基本色名によってほとんどが表示される。青色に関しては、1点を除き Gray（灰）の基本色名が対応する結果が得られた。肉眼では明らかに青色を示しているため、測定系に何らかの問題がある可能性もあり、今後検討を要する。

上代裂の色彩は、総じて黄みを帯びた色彩であることが系統色名による分類で明らかである。染色後千年以上の歳月が経過しているため、染料および繊維には相当の劣化が進行していると考えられ、それに伴う変退色も十分に想像できる。したがって、色彩が示す黄みは、この劣化現象による変退色の結果であると考えられる。

当初の色彩をどのように想像するかは人によって異なる。したがって、同じ伝統色名を用いても実際の色彩が異なる場合は当然生じ得る。現在使用される様々な伝統色名によって表現される色彩が、実際の上代裂の色彩と比較してどのような関係にあるのかは今回の測定のみでは十分論じることにはできない。上代裂の色彩は全体に黄みを帯びた色彩であり、例えば現代において臙脂、蘇芳、茜などの伝統色名によって示される色彩はもう少し黄色みのあるものであったかもしれない。時間を遡って色彩を推定するには、今後多くの検討を要する。